

募集班長の模型部屋（第5回）

皆さんこんにちは。

秋の夜長は、もちろんプラモですよね。窓を開けても虫が夏ほど入ってこないし、過ごしやすいし。とは言いながら、季節に関係なく作っているんですけどね（笑）。

さて、今回は、陸自モデラーでなくとも待っていた方も多かった・・・

10式戦車です。



10式戦車は、C4Iシステムを搭載した世界水準の戦車で、その射撃性能は高く、平成24年富士総合火力演習で「スラローム射撃」を行い、その命中精度で世界の軍事関係者の度肝を抜かせました。細かな性能は各種軍事雑誌やいろんなHPで紹介されているので、詳しくは書きません。

残念ながら、私はこの戦車に乗ったことはなく、試作車両を見学した事があるだけです。

90式戦車と比べてその各種装置が多いのにびっくりしました。いまどきの若い隊員ならば扱いに壁はないのでしょうか、パソコンもゲームもやった事がない年配の乗員には覚えるのが大変だろうなあと感じてしまいました。

何はともあれ、「カッコイイ」戦車であることは間違いありません。近代的なその形に戦車マニアもニンマリしていることでしょう。1/144や、1/72等でキット化されていましたが、みんなが待っていたタミヤ1/35スケールキットの発売に、みんな模型店に駆け込んでいたようです。すぐ売り切れてしまうんだもん・・・ブンブン！

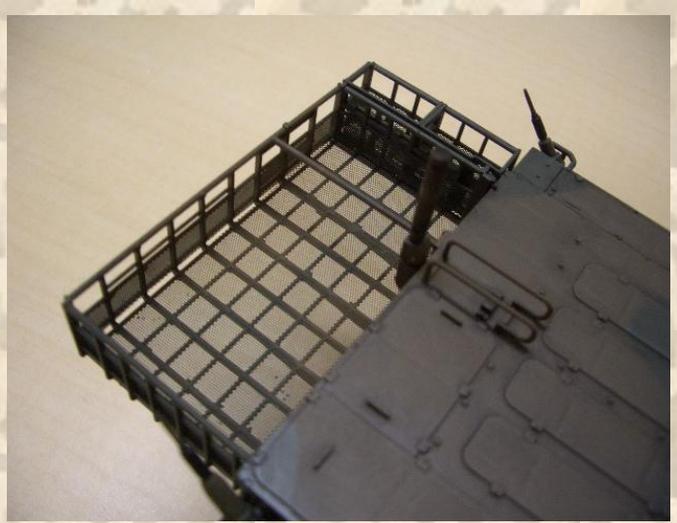
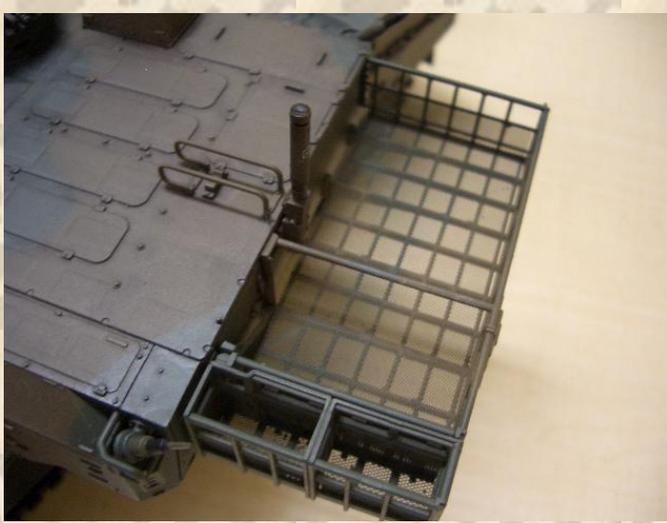


あきらめないで新潟市内を駆け回り、8月に入ってやっと手に入れました。箱を開けて気づいたのですが、部品数が思っていたより少なかったです。そのおかげで盆休みの3日間で完成させることが出来ました。うれしいことに、娘達も生まれ育った北海道に旅行に出かけ、邪魔される事はありませんでしたから（笑）。夜通しラジオを聴きながら黙々と作るのは久しぶりでした。なんか独身の頃に戻ったようでした。あ、今もシングルファーザーと言う独身だったっけ。



ライトのメッシュですが、実車では網の目が細かい正方形なので、キット付属のナイロンメッシュではなく、ハセガワのエッチングのメッシュを使用しました。いずれタミヤからも90式戦車のようにエッチングパーツが販売されるんじゃないかと期待しています。ライトもWAVEの透明のレンズパーツを使用しています。よく分かりませんがね・・・

90式戦車もそうなのですが、このメッシュを通過してライト表面に付着した泥を落とすのがめんどろなんですよ。もちろん表面のカバーが簡単に取れるようになっているのですが、それを留めている金具にも泥が詰まるわけですから、すぐに拭き取る事が出来ませんでした。



砲塔バスケットのメッシュ部分です。実車では菱形のメッシュですので、ここもハセガワのメッシュ（菱形）を使用しました。やっぱりナイロンメッシュでは目が大きすぎるんですよね。予算に余裕がある方はお試しください。塗装の際に目がつまらないようにエアブラシで薄く溶いた塗料を重ね吹きしました。あせってはいけませんね。



12. 7ミリ対空機関銃周辺です。このキットからなのか分かりませんが、機関銃本体が今までの分割と変わり、左右分割でパーツ化されています。従来のように、本体上部にパーティングラインが入らなくていい感じに仕上がります。銃架についている弾薬ケースがちょっと肉厚かな・・・と感じてしまいますがあまり気になりません。色はフラットブラックに鉛筆の粉をまぶすいつもの塗装をしています。



スカートゴムの部分は、タミヤのラバーブラックを使用したいところですが、そんなに新色を買っている余裕もないので、フラットブラックとセミグロスブラックを混色して筆塗りしました。新車では光沢がありますが、演習場で走ればすぐに泥や埃だらけになって光沢がなくなります。スカートの間が誇りや泥が飛び散るのでウェザリングスティックでその汚れの差を表現してみました。ちょっとイメージが違う。今後の課題です。



車体色は、グンゼの「自衛隊色セット」を使用しました。境界線を筆で塗り、エアブラシで仕上げました。10式戦車は明細パターンがきちんと決まっているので、実写写真と見比べながら作業しました。90戦車までは結構自由に塗られていたのに・・・

キットの付属資料に実写写真もたくさん掲載されているので資料集めに苦労する事がなくてよかったです。



マーキングは戦車教導隊の第1戦車中隊です。マークはマークソフトで貼り付けました。シルバリング（シールが白く浮き出て見える現象）が出ないように気をつけましたが、角度を変えると目立っちゃうんだよな・・・

砲手用潜望鏡カバーも大型のものとなり、74式戦車や90式戦車のように自作で増加カバーをつけなくて良さそうです。結構太陽光が入って照準の邪魔をするんですよ。

スミ入れはタミヤの「スミ入れ塗料」を使用しました。従来のエナメルタミヤを希釈して使用していた頃に比べると便利になったものです。

車長用潜望鏡と操縦手ハッチです。

装置の中に光学器材が装着されているのをイメージさせるために、透明パーツの裏にブラックを塗る等の処置をせず、潜望鏡内側をブラックで塗装し、奥行きを持たせてみました。わかりますかね・・・操縦手ハッチなんかはわかりませんね。





「奥の台戦車！徹甲撃て！！」
「グエイーン！スラローム射撃だぁ」
仕事が終わって、募集課の部屋の中
で、しばしの現実逃避・・・
気がつくとも、みんなの視線がなんと
なく痛い。いいんです。誰からも理解
してもらわなくても。

新潟地方協力本部に過去に受賞した
賞状や楯が飾られてる陳列棚があるの
ですが、その中にこの10式戦車が鎮
座しています。だんだん両数を増やし
ていき、「募集班長の展示コーナー」
にしてしまおうとこのスペースを狙っ
ています（笑）



そういえば、7月に発売された「タミヤ
ニュース」531号に、この10式戦車
キットの紹介とその前のページの「私の傑
作」コーナーに私が出ています。店頭で見
かけたら見てみてください。

さて次回は、さすがに自衛隊車両のネタ
が尽きましたので、旧軍車両を紹介させ
ていただきます。その第1弾は大日本帝国海
軍の

特2式内火艇です。

さすがに思い出話とは行きませんが、制作
の状況をレポートさせていただきます。
それではまたおつきあいください。